

大北高架橋下部（P8、A2）工事

【施策の概要】

- ・従来の橋梁下部構造の設計においては、材料を極力少なくすることを念頭に考え、発生する応力状態に合わせて部材断面を決定し、断面を変化させるなどしてきたため、部材形状が複雑化する傾向がありました。そのため、製作に要する加工工程が多くなったり、現場施工に手間がかかることがありました。
そこで、施工性を考慮して総労務量が省力化できるよう、図の様にできるだけ構造を簡素化し統一化することによって、鉄筋の加工、組立作業及び型枠の製作、設置作業の省力化を図りました。

【施策のポイント】

- ・橋台の縦壁形状は原則として変化させない。
橋台の縦壁形状を単純化することで、型枠の製作・設置作業や鉄筋の加工・組立作業の省力化及び足場工の単純化による安全性の向上が図られるとともに、橋台裏込め土の転圧も容易になります。
- ・橋台のフーチング上面のテーパは、原則として設けない。
橋台フーチング上面を水平に仕上げることで、鉄筋加工作業の省力化やフーチング上面のコンクリート表面仕上げが容易になります。

【施策の実施状況・イメージ図】

